第41集

あかるいこころ

差別のない明るい社会を目指して

江府町人権・同和教育推進協議会
江　　府　　町
江　府　町　教　育　委　員　会

目　次

「新型コロナウイルスと基本的人権」……1
「新型コロナウイルスと人権」……5
「身近な人と話してみましょう」……10
「参　考」……12
第二十三回「人権・同和問題啓発標語」入選作品……13
第二十三回「人権・同和問題啓発作文」入選作品
最優秀賞作品　『温かい言葉のプレゼントを！』
江府中学校　三年　加藤　希望……14
新型コロナウイルス感染症に関する江府町宣言……17

「新型コロナウイルスと基本的人権」

私たちの町は四季折々に自然が見せる美しい景観に恵まれ、ここに暮らす人々は生き生きと、そして優しさにあふれています。日々の生活の中で知らず知らずのうちに感じる「安らぎ」や「癒し」はこの環境に負うところも大きいのではないでしょうか。

一方、私たちは「安心安全」を当たり前のように感じています。これは、日本国憲法に定めた第十一条「国民はすべての基本的人権の享有[※注1]を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在および将来の国民に与えられる」という条文によって守られ育まれた部分も大いにあると言えると思います。

そして、この権利は事故や病気あるいは様々な理由で個人が持つ心身の特有な個性に対しても例外ではありません。しかし、二〇二〇年の現在、新型コロナウイルスの感染拡大によりこの大切な「基本的人権」が侵されようとしています。

※注1　享有・・・権利・能力などを、人が生まれながらに身につけてもっていること。

新型コロナウイルスには3つの感染症の顔があると言われています。

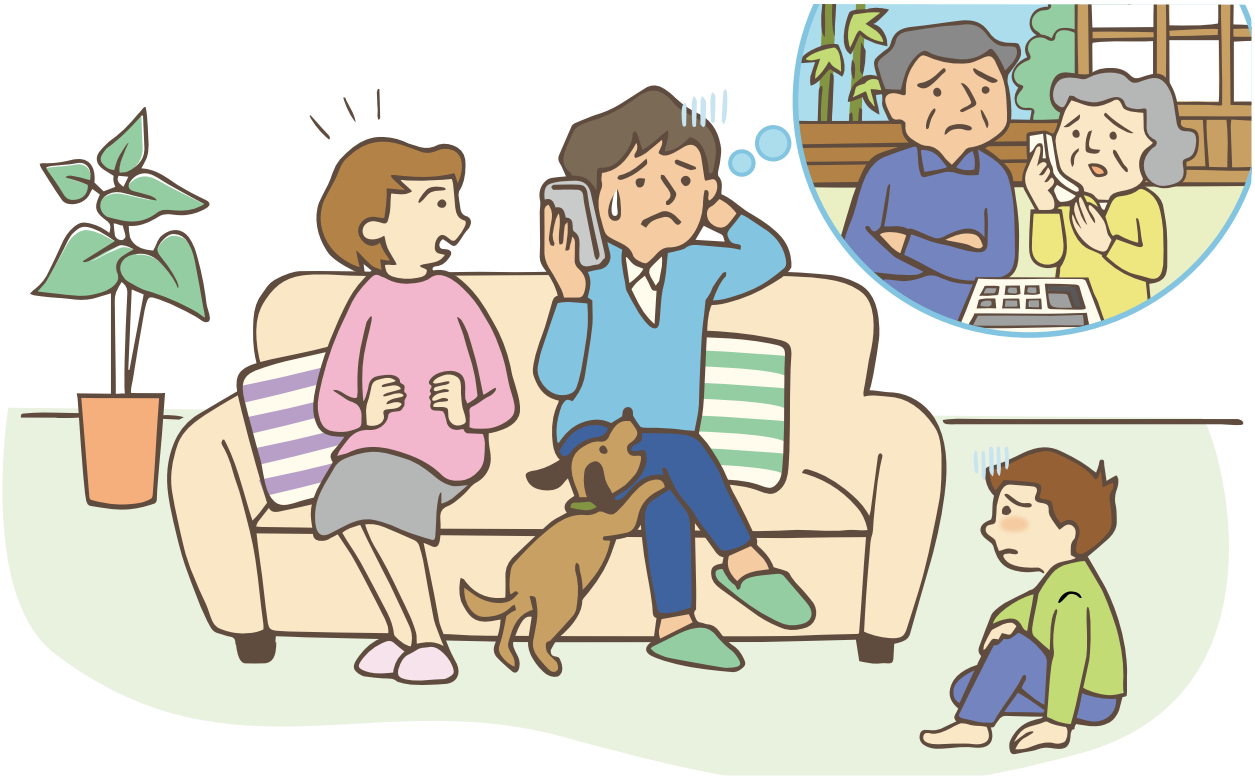
1番目は、病気そのものです。
2番目は、不安と恐れです。※注2
3番目は、嫌悪※注3・偏見・差別です。

不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。そして、ウイルスに接触したとみなされる人や対象を日常生活から遠ざけたり、レッテルを張ったりする心理によって束の間の安心感を得ることで偏見や差別を生じさせます。やがて、人と人との信頼関係や社会のつながりが弱くなってしまいます。このようなことは身近にもあります。

例えば、例年帰省客やお祭りでにぎわう各地区も、今年は寂しいお盆を迎えました。実際に帰省した人たちもいましたが、石を投げられたり、非難の投書が郵便受けに投げ込まれたりと過剰ともいえる防衛反応が、どうしても帰省しなくてはならない特別な事

※注2　嫌悪・・・憎み嫌うこと。

※注3　偏見・・・偏った見方・考え方。



情を抱える人たちにまで影響を及ぼしたからです。人は誰でも、病気や災難に見舞われたくありません。わが身を含む家族や地域を守りたい心理によるものですが、よく考えてみれば、それらの行動で良かったかどうか、分かるのではないでしょうか。

ある組織のリーダーは「闘うべきは病気やウイルスであり人間ではない」と発言されています。まさしくその通りだと思います。第一にすべきは、予防と感染者の救済です。あわせて、医療の最前線で働く関係者や感染経路上の人たちが、心身ともに不当な扱いを受けるようなことがあってはな

りません。幸い私たち人類は、過去の災厄を英知と勇気で乗り越えてきました。

基本的人権を守り、支え合う心を一層強く持ち、この美しい故郷と人々を守るべく、このコロナ禍をみんなの力で克服していきましょう。

※注4　災厄・・・わざわい、災難。
※注5　英知・・・すぐれた知恵。

「新型コロナウイルスと人権」

去年から新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大しました。みなさんも、いつどこで感染するかもしれない、重症になれば死に至るかもしれないという不安があると思います。このことは、世界でも日本でも、共通して重要な課題の一つになりました。

このような状況の中、差別や偏見の人権問題として考えられる事象が多数発生しています。

この機会に、新型コロナウイルスと人権について、家庭の中でも考えてみましょう。

まずは、次の場合は、どうでしょう。

例1（県外ナンバーの車）

家族で大型商業施設に買い物に出かけました。外出が減っていることもあり、久しぶりに行くので私は、ちょっとウキ

ウキして、父が運転する車に乗り楽しい雰囲気で大型商業施設に到着しました。駐車場にはたくさんの車が止まっています。すると母が「今日はやめよう」と言いました。理由を聞くと「県外ナンバーの車がたくさんあり、どこにコロナウイルスを持った人がいるかわからないので怖くて行けない。県外ナンバーの車は来てほしくない。家でじっとしていればいいのに」と言うのです。この母の言葉を聞いて私のウキウキした気持ちはどこか遠くへ行ってしまいました。

この他、次の４つの例を参考にして、考えをひろげてみましょう。

例２（医療従事者等）

人手が足らず、防護具が十分に行き渡らない過酷な現場で治療にあたる医療従事者とそこに関係する周りの人に対する心ない言動が後を絶ちません。タクシー乗車を拒否されたり、子どもが通

う保育園から登園の自粛[※注6]を求められたり、日々、身を削る思いで仕事を果たしているのに、本人ばかりか家族まで冷たい視線にさらされたのではやり切れません。

例3（人権侵害防止の取り組み）

人権侵害防止について米子市や様々な自治体が、宣言をし、江府町でも「新型コロナウイルス感染症に関する江府町宣言」[※17ページに掲載]を出しました。これは、感染者や家族らが誹謗中傷[※注7]される状況を受けたものです。感染は誰にでも起こる可能性があり、感染者は非難される対象ではなく、守られるべき存在です。職場や家庭などへの誹謗中傷や差別的な言動によって、感染を隠すようなことがあれば、感染拡大につながります。そして、誤った情報や不確かな情報を広げないことも大切です。

例4（帰省）

盆の帰省を巡る葛藤[※注8]もありました。特に首都圏や阪神方面など感染拡大に歯止めがか

※注6　自粛・・・自分から進んで、行いや態度を慎むこと。　※注7　誹謗中傷・・・根拠のない悪口をいいふらして他人の名誉を傷つけること。
※注8　葛藤・・・心の中に相反する動機・欲求・感情などが存在し、そのいずれをとるか迷うこと。

からない地域からは、帰省すべきか否(いな)か、帰る側も迎(むか)える側も頭を悩(なや)ませました。長く帰省を控(ひか)え、外出を自粛し、都会の狭(せま)い部屋の中で耐(た)えている人もいました。先祖の供養(くよう)を機会として戻って息抜きをしたい、してもらいたいという思いがあり、はっきり「控えて」とは言いづらかったという話が多くありました。

例5（マスク着用）

このコロナ禍の中、ついには、マスク警察(けいさつ)といわれる言葉まで生まれました。マスク着用は、今では大切なマナーです。そのため、マスクをしていない人がいたら警察のように注意するというのです。注意だけでなく、ののしり、場合によっては暴力をふるわれたということです。

こうした例の他にも人権問題と思われる事象がほかにもあるかもしれません。今後の展開によっては、新たな人権問題が発生するかもしれません。そのような時、勇気をもっ

て問題に向き合い、少しでも良い方向に導くのが私たちの責務ではないかと思います。こうしたときこそ、人類が共に手を取り合い、明るい未来を創造(そうぞう)しようではありませんか。

「身近な人と話してみましょう」

家族や身近な人たちと次のことを話し合ってみましょう。

【質問1】 次のような状況を見かけた時、あなたはどう思いますか？

①自粛期間中に県外車や人を見かけた時。

②「マスクをしない人」を見かけた時。

【質問2】 次に、理由について考えてみましょう。

①なぜ、「自粛期間中に県外から来たのか」その理由を考えてみましょう。

②なぜ、「マスクをしていないのか」その理由を考えてみましょう。

参考

○このような現状の中でしなくてはいけないこと（例えばマスクをつけるなど）をしたくてもできない人もいることを考えてみましょう。

○誰もが抱える不安や恐怖、ストレスから差別、誹謗中傷が生まれています。言動に移す前にもう一度自分の心と向き合って考えてみましょう。

○がんばっている人をみんなで応援しましょう。

第二十三回「人権・同和問題啓発標語」入選作品

【小学生標語】

◆最優秀賞

いつまでも　いっしょにいるよ　友達だもん　五年　水下奈那美

◆優秀賞

ふやそうよ「がんばってるね」「じょうずだね」
　いわれてうれしいハッピーことば　一年　千藤　弘翔

ありがとう　にこにこえがおで　いってみよう　二年　宮本　結都

ゆめはつぼみ　自分できれいに　さかせよう　三年　末次　碧生

あつまろう　こまったときは　たすけあう　四年　森田　亜睦

おたがいに　いつも笑顔で　助け合おう　六年　森田　心晴

（江府町が令和元年度に募集した啓発標語入選作品です。）

第二十三回「人権・同和問題啓発作文」入選作品

【中学生作文】

◆最優秀賞

温かい言葉のプレゼントを！

江府中学校　三年　加藤　希望

みなさんはＳＮＳの使い方について、深く考えたことがありますか？みなさんの中にはＳＮＳを利用している人が少なくないと思います。私もツイッターやインスタグラムを利用しています。私はＳＮＳを利用する際に人の悪口や批判をする内容の投稿をしない、拡散しない、ということを心がけています。私がそのように利用しようと思ったきっかけは二つあります。

一つ目は私が好きなキャメロン・ボイスという海外の俳優さんが二十歳という若さで亡くなった時です。過去や現在、共演していた人がコメントをインスタグラムなどで発表していました。そういう中、しばらく経ってもコメントを発表しなかったデビー・ライアンという女優さんに批判が集まりました。批判するコメントの中にはデビーさんの人格を否定しているひどいものがたくさんありました。その後、デビーさんがインスタグラムに動画を投稿しました。それは、キャメロンさんが

生前、チャリティーイベントに参加した際のスピーチです。その内容を日本語に直すと、「クレイジーだよね。僕たちはツイッターで好きなことをつぶやくことができるし、インスタグラムといったソーシャルメディアを使って世界を良くすることもできる。大半の人たちは悪い方に使っているみたいだけど。僕たちがスーツを着て、今日ここにいるのは、自分たちが持つ力を使って世界をよくするために。」という内容です。私はこの動画を見て、自分も大きな力はないけれど世界を良くする方向でＳＮＳを利用したいと思いました。

二つ目は、私が好きなＳｅｘｙＺｏｎｅというアイドルグループの中島健人さんのソロ曲のパフォーマンスについて他のアーティストのファンとＳｅｘｙＺｏｎｅのファンがツイッター上で対立した時です。その時、それぞれのファンの一部の人たちが、論点ではないアーティストの人格、見た目、出身地をバカにするような発言をしていました。私はそれを見て、好きなアーティストをバカにされて嫌な気分になりました。それに同じアーティストを好きな人たちがそんな発言をしているのが悲しかったです。ＳｅｘｙＺｏｎｅのファンの中で「こんなのはやめよう」ということで「＃中島健人さんのここが好き」というハッシュタグが作られました。そのタグがファンの中で広がると、以前はツイッターの検索機能で中島健人を検索すると批判のツイートばかりだったのが、ファンの温かい言葉であふれるようになり

ました。このタグは日本のトレンド1位になりました。そしてこのタグを使った海外の人のツイートをたくさん見ました。中島健人さん本人もブログで「ありがとう」と書いて、話題になりました。

私はこのことを通して考えたことがあります。ＳＮＳでは簡単に悪口や差別的な言葉もあっという間に広がるけれど、逆に人を思いやる温かい言葉を世界中に届けることもできるということです。

私はこの二つの出来事で、改めてＳＮＳは怖(こわ)くて、利用するには、細心(さいしん)の注意が必要だけれど、上手(じょうず)に使えば普段は発信力がない人でも自分の考え方や言葉を世界中に発信できたり、同じ趣味(しゅみ)や考え方を持つ仲間ともつながれたりするすばらしいものになると学びました。みなさんもＳＮＳを利用する際にはこの発言が他の人からどう受け止められて、どんな気持ちにさせるのか、考えてみてはどうでしょうか。

◆優秀賞

「気分のいいコミュニケーションを！」　江府中学校一年　藤原　光汰

「自分は本当に勝っている？」　江府中学校二年　山本小太郎

（江府町が令和元年度に募集した啓発作文入選作品です。）

新型コロナウイルス感染症に関する江府町宣言

私たちが今直面している新型コロナウイルス感染症は、人々に不安や恐怖を与え、誤った知識や思い込みによる偏見や差別を生んでいます。

特に、医療従事者や感染者、そして、その家族等に対して何の根拠もない誹謗中傷や心無い行動が繰り返され、新型コロナウイルス感染症拡大防止の妨げにさえなっています。

この状況を乗り越え、誰もが安心して暮らせるように社会全体で環境を整える必要があります。

よって、まずはここ江府町において、一人一人のかけがえのない人権が保障され、新型コロナウイルス感染症に関わるすべての人たちを応援する社会の実現に向けて宣言します。

医療従事者（いりょうじゅうじしゃ）や感染者、その家族が安心して仕事や治療に専念できるよう応援します。

不確かな情報に惑わされることなく、正しい情報に基づき行動します。

心無い誹謗中傷（ひぼうちゅうしょう）や差別・偏見のない人権が尊重される町づくりに努めます。

令和２年９月

江府町
江府町人権・同和教育推進協議会
江府町教育委員会

生涯学習基本テーマ

明日へ生きる私を求めて

第41集/2020年11月27日

印　　刷　冨士印刷有限会社
イラスト　門脇　多美

無断転載禁止